

## 実質化された人・農地プラン

注：本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
波佐見町	湯無田地区	令和3年3月16日	平成31年3月27日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	14.7ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	5.1ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	0.08ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.08ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	8.1ha
(備考) 昭和55年度 圃場整備 5.8ha 農地中間管理事業による集積 7.6ha (R2.9)	

注1：③の「75才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

## 2 対象地区の課題

75才以上で後継者未定の農業者の耕作面積が0.08haあり、認定農業者や地域の担い手候補で引き受けていく。そのためには農地の集約化や担い手候補の育成確保が必要。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

湯無田地区の農地利用は、中心経営体である集落営農法人や認定農業者2経営体が担うほか、担い手候補を育成確保し、地域で農地を守っていくことを基本とする。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
計	4人		ha		ha	

注1：「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2：「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3：「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<p>○ 農地中間管理機構の活用方針</p> <p>将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、原則として、農地を機構に貸し付けていく。</p> <p>中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。</p>
<p>○ 鳥獣被害防止対策の取組方針</p> <p>鳥獣害対策として、こまめに侵入防止柵の点検を行い、補修を確実に行う。</p>
<p>○ 担い手確保の取組方針</p> <p>地域で農地を守っていくために、集落営農法人の担い手（オペレーター・作業員）育成、確保に取り組む。また、地域内で担い手候補の育成、確保に取り組む。</p>
<p>○ 災害対策の取組方針</p> <p>排水が悪い農地が多いため、小規模農林事業を活用し（暗渠工事など）、機能回復に努める。</p>
<p>○ 農地集積の取組方針</p> <p>作業の効率化のため、認定農業者への農地集積に取り組む。</p>
<p>○ 効率的な農地活用方針</p> <p>品目ごとに団地化して耕作を行い、効率的な耕作に努める。水稲ができない圃場については、今後作付品目の検討を進める。また、市民農園の開設を検討し、農地の有効な利活用を促進する。</p>
<p>○ 水利施設の管理方針</p> <p>水利施設については、地域の共同作業で維持管理を行う。また、ゴム堰の改修について、今後検討を進める。</p>
<p>○ 農業の持続的発展</p> <p>共同作業や地域コミュニティーを大切にし、農作業の楽しみを再認識することで、農業の持続的発展に努める。</p>